私の経験から、実の娘一家との同居には、距離感を意識することがとても重要であるということについてお話しします。

一人娘が嫁にいき、父と二人の気楽な生活も二年位で父が他界、ますます自由な一人住いとなったのですが、二人目の孫が産まれる前に同居したいという娘一家、まあいずれそうなるだろうからと承諾、新しい生活が始まった。

人は実の娘と同居なんて一番良いと言うけれど、長く母子家庭だった私達にとっては、何でも言いあえる関係つくりがアダとなり、言わなくても良いことまで言い合いイライラする生活の始まりだった。「ばあちゃーん」とノックもせずに部屋に来る孫、それをヒステリックに怒る娘。おもちゃやお菓子を買い与えても、娘の心持ち如何で、叱られる孫を見るハメに。

そんな日常を変えようと、まず私が忙しいフリをすることにしました。忙しいので食事は、娘が作ったものを食べ、食べたくなければ外食、自分の部屋は仕事場として、私の OK がなければ来てはいけないと孫にも伝え、本当に困って SOS が出た時以外は、自分の部屋以外の事は一切関知しないことにしました。文句も言わない、手出しもしない。三人目の出産時には SOS も出て、堂々と手伝う、そんな距離感がお互いに気分よく生活できることがお互いに判ってきました。

これから私の経験から学んだことをお話しします。それは、「実の娘一家との同居には、距離感を意識することがとても重要であるということ」についてです。~~お話しします。~~

※１：いきなりの一文目がちょっと長すぎると感じました。長い文は、それだけ理解がしにくくなります。長くなるなら文を分けましょう。一文は 30 文字程度。60 文字を越えるようなら、分けましょう。

一人娘が嫁にいき、父と二人の気楽な生活も二年位で父が他界、ますます自由な一人住いとなったのですが、二人目の孫が産まれる前に同居したいという娘一家、まあいずれそうなるだろうからと承諾、新しい生活が始まった。

※２：この文章も長いですよね。

※３：「他界」「娘一家」「承諾」など単語で切れて、「読点（,）」が打たれていることが気になります。「他界しました。」「娘一家が言います。」「承諾することにしました。」など、文章をきちんとつくることを意識してください。文章を文法にそってつくれたうえで、文章をより美しく磨くために単語で区切っているのであればよいと思います。まずは正しく文章を書くことを意識しましょう。

改善案：※数字は適当です。

私と娘の同居生活がはじまったのは、いまから 1 年前のことです。7 年前、娘を嫁にやってから、私は父と気楽な二人暮らしをはじめました。その父も 2 年前に他界し、それからの私は、ますます自由なひとり暮らしとなっていたのです。ところが、出て行ったはずの娘が、二人目の孫が産まれる前に「同居したい」と申し出ました。まあ、いずれそうなるだろうから……と私は承諾しました。そうして 1 年前から、いまの同居生活がはじまったのです。

~~人は~~実の娘との同居が~~なんて~~~~いちばん~~~~一番~~良いと、世間の人は言うけれど、長く母子家庭だった私~~たち達~~にとっては、何でも言いあえる関係つくりがアダとなり、言わなくても良いことまで言い合いイライラする生活の始まりだった。「ばあちゃーん」とノックもせずに部屋に来る孫、それをヒステリックに怒る娘。おもちゃやお菓子を買い与えても、娘の心持ち如何で、叱られる孫を見るハメに。

娘との同居は、そのままイライラする生活のはじまりでした。孫が「ばあちゃーん」とノックもせずに部屋に入ってきます。娘がそんな孫をヒステリックに叱ります。私が孫におもちゃやお菓子を買い与えると、それが娘の怒りを買うのもよくあることでした。“実の娘との同居がいちばんいい”と、世間の人は言います。けれど、なんでも言い合える親子だった私たちは、その関係が逆にアダとなり、言わなくても良いことまで言い合うようになってしまったのです。

※冒頭に、この段落の要約を持ってきました。**「娘との同居は、そのままイライラする生活のはじまりでした」。**その詳細を段落のなかで綴っていくと、読み手の頭に入ってきやすいです。

私は、そんな日常を変えることにしました。~~ようと~~、まず、私が忙しいフリをすることにしました。忙しいので、食事は~~、~~娘が~~作~~つくったものを食べます。~~、~~食べたくな~~ければ~~いときは外食~~、~~です。私は孫に、私が許可しないときは、私の部屋に勝手に入ってきてはいけないと伝えました。私の部屋は、仕事場にすることにしました。そして、私自身も、~~自分の部屋は仕事場として、私の OK がなければ来てはいけないと孫にも伝え、~~本当に困って娘が SOS ~~が出た~~を出したとき~~時~~以外は、~~自分の部屋以外の事は一切~~家のことにいっさい関知しないことにし~~ました~~たのです。文句~~も言わない、~~は言いません。手出しもし~~ない。~~ません。

そんか距離感をつくってみたところ、~~三人目の出産時に~~ついに娘から~~は~~三人目の出産時に SOS ~~も出て、~~が発信されたのです。娘からの信号を受信して、私は初めて堂々と手伝~~う、~~います。そんな距離感がお互いに気分よく生活できることが、お互いに判ってき~~ました~~たのです。

これが、私が「実の娘一家との同居には、距離感を意識することがとても重要であるということ」を学んだ経験です。

コメントの追加 [U1]: 「人は実の娘と」のあたりで、読み手は、この「人」が誰なのかがわかりません。文の流れから読み解くと、これは、一般論として、世間の声としての「人」です。丁寧に説明してあげないと、読み手を迷子にさせる表現です。

コメントの追加 [U2]: 「同居なんて」という言葉にはネガティブな意味が感じられます。「実娘と同居」という文を受けて、書きグセで「なんて」と続いたのだと思います。「実の娘との同居」とすることで、「が」という関係性の助詞にうまくつながるように調整しています。

コメントの追加 [U3]: 何を漢字にするか、何を平仮名にするか、です。

コメントの追加 [U4]: 「～です／～ます」調と、「～だ／～である」調が混在しています。どちらかに統一しましょう。

コメントの追加 [U5]: 最後に、総論として、もう一度、何を学んだかをきっちりと入れておきます。